

「大吉なのに…」

元旦から能登半島では地震、羽田では飛行機事故、北九州では火災と、思いもよらぬ幕開けとなった2024年。

皆様は年末年始どのように過ごされましたでしょうか？

私は、大晦日から久しぶりに認知症の母と正月を過ごしました。日頃はデイサービスで、母とゆっくり話すこともないのですが、大晦日から四六時中、一緒となると結構大変でした。

妹達家族を招いての新年会の時は良かったのですが、その後数分ごとに繰り返される同じ質問に辟易し、正月気分も吹っ飛びます。認知症の母との生活は、改めて私たち家族にどう「老い」ていくべきかを考えさせてくれます。

1月2日には母をデイサービスに預けて桜井神社へ初詣。おみくじを引くと珍しく「大吉」。正月早々、縁起が良いなと思いつつも、冒頭から意味深な短歌が…。

「いとまなき 世にたつとも たらちねの 親につかふる 道な忘れそ」

どんなに多忙で社会活動している人でも、親に仕える道、即ち孝行だけは忘れないようにしなさいという明治天皇の短歌にヒヤリとします。その上、「大吉」の横には「程よさを忘れず、栄耀への我執を捨てよ」と続きます。

「慢心するなよ」という天の声が聞こえてくるようです。確かに、去年は公私ともに良き一年でしたから、今年もうひと伸び出来るかどうか真価が問われます。

そんなことを考えながら毎年恒例の100個目標にチャレンジ。達成率は例年3割程度ですが、100個出し尽くすのに苦しみながら「俺ってこんなこと考えてたんだ」という意外な欲望が垣間見えるのが面白いものです。

ちなみに去年は「1日1日にピリオドを打つ」を心がけた結果、最高の大晦日を迎え、夕暮れの中、氏神さまに感謝を伝えることが出来ました。

今年もそうやってヒネリ出した103個の目標から最重要目標を「募金する」に決定。もしかしたら元旦の地震が思いのほか心に染みていたのかもしれませんが。

最近でこそ、神社等に賽銭を多少は弾むようになった私ですが、元来、募金箱にお金を入れるような人間ではありませんから。

ケチで、損得勘定で動く人間だからこそ、我欲を捨てて募金できる自分を目指すのです。

という訳で早速、能登半島やパラリンピック・アスリートに少しでも支援させて頂きました。

募金のことを「喜捨」といったりしますので、「喜んで出す」ことを挑戦します。

今のフレッシュな心境も月日が経って、仕事が不調に陥ったとしても同様に喜捨できるか？

それが問われる一年になりそうです。